



宮城県東部保健福祉事務所 (宮城県石巻保健所) 復興支援ニュース Vol.11



平成24年6月

震災がれきの二次処理本格スタート

県が石巻市雲雀野地区に設置工事を進めてきた震災がれきの2次処理施設(焼却炉)の一部が完成し、5月13日に細野環境相、安住財務相や若生副知事、石巻市・東松島市・女川町の各首長及び自治体関係者が出席して**神事式、火入れ式**が行われました。細野環境相は「石巻地域のがれき処理を進めることが被災地すべての処理を加速していくことになる。再利用や有効活用を進めるとともに広域処理を全国に進めていくことを約束する。」と挨拶しました。ヤード内では**2種類の焼却炉合計5基**が設置され、国や県が設定した目標として、**発災後約3年以内に処理を完了すること**を目標に処理を行っていくことになっています。神事式での安全祈願のあと、参列者が着火ボタンを押下し、焼却炉内のバーナーに点火されました。

【神事式の様子】



【火入れ式で挨拶する細野環境相】



災害廃棄物処理の状況

環境省公表資料より(H24.5.21現在)

	災害廃棄物 推計量 (千トン)	仮置場への搬入状況		処理・処分状況		
		搬入済量 (千トン)	搬入率 (%)	処理・処分 量計(千トン)	処理・処分 割合(%)	
石巻 ブロック	石巻市	4,458	2,854	64%	1,212	27.2%
	東松島市	838	696	83%	39	4.7%
	女川町	286	226	79%	153	53.6%
宮城県計	5,582	3,776	68%	1,404	25.2%	
	11,537	9,368	81%	2,123	18.4%	

◆焼却炉◆

	ロータリー キルン	ストーカー
処理能力	300トン/日	300トン/日
設置数	2基	3基



※写真はロータリーキルン1号機

地域のサポートセンター 活動紹介



【サブセンターのここから専門員の方々】

「ここから専門員」や「くらしの相談員」が、集会所でのイベント企画や運営、住民の方々から相談を受けたり、家庭訪問等を行っています。

「多目的サブセンター」では、相談を受け支援につなげたり、住民の方々の声を聴き新たなイベントを企画したり、イベントの講師は仮設住宅の中から探し出すなど、地域に根ざした活動を行っています。

また、仮設住宅のほとんどの方の顔を覚えており、気軽に声をかけ住民同士見守りができるコミュニティづくりも担っています。

女川町内に7ヶ所設置されている『女川町こことからだとくらしの相談サブセンター』では、「被災後も町民がからだもこころも健康を維持し生活できる」を目的に、「ここから

復興支援センター 活動紹介

4月から女川町復興支援センターの活動体制が変わり、「地域支援」を5人のスタッフで行っています。昨年10月から3月まで仮設等を個別訪問し、いろいろなニーズを拾いあげ、他につなげたりする活動も行っていました。現在は主に、ボランティア希望者のマッチングやボランティアの受け入れ調整などを行っています。

4月から活動を公開しブログを開始したところ、ボランティアの問い合わせが多くあり、GW 期間中にガレキ



【長野県から送られたキルトと復興支援センタースタッフ】

撤去作業のボランティアが延べ150人ほどが集まりました。

今後は、震災前から行っていた町民のボランティアを募り、生きがい作りや地域の復興に生かしたいとのことでした。



イメージキャラクター【ボラしか】

一般社団法人日本カーシェアリング協会では、震災を契機として石巻市内の仮設住宅を中心にカーシェアリング事業を行っています。個人や企業から車の提供を受け、仮設住宅等の提供先を決定し、名義変更等の手続きをして、利用者の方へ受け渡ししており、現在50台程度の車両が利用されています。同協会では軽自動車、普通車、軽トラックなど様々な車を要望に応じて提供しており、中には地域住民が自宅から集めてきたものを原料とした天ぷら油で走る自動車もあります。昨年7月にカーシェアリングを始めた当初は車の確保や行政手続きなどに苦労もありましたが、課題を乗り越え、被災者の方々のサポートに全力を尽くしています。また、姫路から日本工科専門学校の学生達が車両整備のボランティアにかけつけるなど、全国規模での応援もいただいています。スタッフの吉澤さんは、「こうした活動を通じて、仮設住宅団地内でコミュニティや助け合いの和が広がってほしい」と話してくれました。



【協会スタッフの皆さん】

カーシェアリングに関する
お問い合わせは、

TEL 0225-22-1453 まで



日本カーシェアリング協会の想い

※震災で車を無くした被災者を支援し、車が共同で利用できる社会を作りたい!
※ここ石巻からカーシェアリングが始まると全国に誇れるように、地域の方々が自立した形で利用していただけるようサポートしたい!



日本カーシェアリング協会のキャラクター「スートン」と「ローリー」

皆さん、ヨロシクお願いします!

協会では「スートン&ローリー」のキーホルダーを制作。販売中とのことですが、今回特別にご希望の方先着3名様にプレゼント!

【問い合わせ先】左記まで

みやぎ医療福祉情報ネットワーク説明会



【説明を行う協議会事務局】

5月23日、みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会では病院や診療所、薬局等を対象に石巻市で説明会が開催され、70名ほどの参加がありました。

患者さんが受診した時に、他の病院での検査データや薬の処方情報を共有し、何度も同じ検査をしなくても診断治療ができるなどの利点があると説明がありました。

【地域医療情報連携基盤構築事業の目的】

- 中核病院と他病院/診療所との医療情報連携構築
- 介護・在宅医療・生活支援を推進
- 医療情報の電子化・バックアップ体制の確立

災害に強い役に立つ地域医療情報連携基盤



このネットワークは宮城県震災復興計画の保健福祉の復興の一つとして位置づけられています。

生活不活発病予防勉強会

震災後、生活環境の変化などにより活動が制限されたり活動が低下することで、生活不活発病になりやすい環境にあります。そこで、宮城県サポートセンター支援事務所では5月23日、東松島市内で生活不活発病に対する正しい知識を学び、実践できる予防方法を考える機会として国立長寿医療研究センター大川弥生先生を講師に勉強会を開催し、サポートセンター職員やケアマネ等約60名が参加しました。



【勉強会の様子】

講話では、南三陸町や岩手県の住民の調査結果や、病気やケガがなくても生活機能が低下するなど、基本的なことや、予防の大切さを学びました。

生活不活発病とは

「動かない」(生活が不活発な)状態が続くことにより、心身の機能が低下して、「動けなくなる」ことをいいます。

編集後記

今月は石巻で行われている「カーシェアリング」の取材をさせていただきました。ニュースに関するこれまでの取材の中でも、全国から、被災地のために何かしたいという熱い気持ちをたくさん聞かせていただいて、私たちも励みになりました。皆さんの気持ちに負けないよう、私たちも頑張っていきます!

問い合わせ先

宮城県東部保健福祉事務所
企画総務班 企画調整グループ
HP: <http://www.pref.miyagi.jp/et-hc/>
Tel: 0225-95-1416(代表)
Fax: 0225-94-8982